

都道府県評価報告表

市町村名	事業実施主体名	メニュー① (対象作物・地区種等)	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①					成果目標の具体的な実績①	メニュー② (対象作物・畜種等名)②	成果目標の具体的な内容②	事業実施後の状況②					成果目標の具体的な実績②	特別枠加算の取組の具体的な実績	事業内容(工種、構造、規模、能力等)	負担区分			完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考				
				計画時(平成23年)	1年後(平成24年)	2年後(平成25年)	3年後(平成26年)	目標値(平成26年)				達成率	計画時(平成23年)	1年後(平成24年)	2年後(平成25年)	3年後(平成26年)				目標値(平成26年)	達成率	事業費					交付金	都道府県・市町村費	その他	
宇和島市	えひめ南農業協同組合	果樹(かんきつ)	果樹産地構造改革計画におけるH26年の振興品種栽培面積が、かんきつの全栽培面積に占める割合を3.08ポイント増加。	77.15%	78.27%	79.09%	79.61%	80.23%	79.8%	園地の若返りや産地競争力の強化を図るため、振興品種への改植を推進した結果、かんきつ栽培面積に占める振興品種割合が計画時より2.46ポイント増加した。	果樹(かんきつ)	H26年のかんきつ全出荷量に占める契約取引の割合を12.00ポイント増加。	0%	0%	10.45%	11.94%	12.00%	99.5%	高品質果実生産等への取組についてパイヤー等に説明をおこなった結果、かんきつ全出荷量に占める契約取引の割合が計画時より11.9ポイント増加した。	—	集出荷貯蔵施設 【内設機械】 品質評価機器44条(台数) 能力313t/日 計画処理量23,526t 品質評価項目(糖度、酸度、腐敗、生傷)	783,300,000	373,000,000	0	410,300,000	H25.9.27	柑橘全体として面積が減少する中、振興品種は増加傾向にあり、成果目標Ⅰについては、目標年(H26)時点では近年のうんしゅうみかん価格の高値安定や気象条件の悪化による作業対応等の理由により目標値に達しなかったものの、その後振興品種への改植が進み、直近(H27年5月)では振興品種の占める割合が80.34%となり目標値を超えている。また、成果目標Ⅱの契約販売についても、腐敗果等を判別できる評価機器の整備により高品質果実への理解が得られ、目標をほぼ達成できた。	事業実施後、事業の成果が認められており評価できる。成果目標Ⅰは達成率が79.8%であるものの、直近(H27年5月)の数字を確認したところ103.5%となっており、評価できる。成果目標Ⅱは、26年産が厳しい気象条件であった中、ほぼ目標を達成しており高く評価できる。		
八幡浜市	西宇和農業協同組合	果樹(かんきつ)	果樹産地構造改革計画におけるH26年の振興品種栽培面積が、かんきつの全栽培面積に占める割合を4.6ポイント増加。	80.09%	81.27%	82.90%	84.40%	84.74%	92.6%	園地の若返りやブランド力の維持向上のため、振興品種への改植を実施した結果、かんきつ栽培面積に占める振興品種の面積割合が計画時より4.31ポイント増加した。	果樹(かんきつ)	H26年の真穴選果場の温州みかん(極早生を除く)全出荷量に占める契約取引の割合を5.2ポイント増加。	25.28%	31.10%	31.50%	32.20%	30.52%	132.0%	高品質果実生産を徹底し、市場・消費者の信頼を高めるとともに、生産者の所得向上につながる契約販売の増加に努めた結果、全出荷量に対する契約販売量が6.92ポイント増加。	—	集出荷貯蔵施設 【内設機械】 品質評価機器20条(台数) 能力160t/日 計画処理量7,000t 品質評価項目(糖度、酸度、腐敗、生傷)	366,433,200	174,492,000	0	191,941,200	H25.5.24	振興品種への改植の推進及び契約販売の拡大に努め、ほぼ計画時の目標を達成することができた。	事業実施後、事業の成果が認められ、成果目標はほぼ達成されており高く評価できる。特に、26年産が厳しい気象条件であった中、契約取引量は目標を大幅に上回ったことは事業の大きな成果である。		

都道府県平均達成率		都道府県総合所見
100.9	%	事業を導入したいずれの地域もかんきつ栽培面積が減少傾向にある中、園地の若返りやブランド力の維持向上に向けた振興品種への更新を積極的に進め、目標をほぼ達成させたことは高く評価できる。また、26年産は柑橘栽培にとって夏期の日照不足や12月の風雪による被害が発生したにも関わらず、順調に契約取引量を増加させたことは、事業の成果はもとより、産地の高品質生産に向けた弛まぬ努力の結果であると考えられる。